

5月定例山行

5月6日(日)

参加者：22名

十種ヶ峰 (988.8m)

☆天気：曇りのち晴れ

CL小林 愷子 SL若木 小夜子

中島(美)・三浦・原田・杉山・中島(恵)・宮木(一)・宮木(澄)・安永
熊谷(修)・熊谷(陽)・長松・利田・円山・若木(一)・坂井・田所
大坂・荒尾 会友：中島(靖)・竹原

コースタイム

県庁北口 7:30 発→9:45 着登山口 10:00 発→12:00 着頂上 13:30 発→
14:30 着野外活動センター→県庁北口 17:20 帰着

報告：再々訪の十種ヶ峰ではあるが、今回は「ヤマシャクヤク観察」というテーマで取り組んだので、俄かリーダーの私は下見をしたり、役場の観光課に問い合わせたりブログなどで十種ヶ峰の情報を事前に入手した。行楽シーズ中で車の流れを心配したが、順調に走り、意外に早く現地に着いた。いつの間にか朝方の雨も上がって5月の空が広がっている。従来の中角登山口の少し手前の神社のそばに「ヤマシャクヤクコース」の新しい案内板が設置されており、一方通行が指定されていた。

近在から、また遠方からのグループの人たちで登山口は大変賑わっていた。この分ならきょうは道に迷う心配はない。イノシゲートを潜ると暫く針葉樹林の植林地帯が続く。やがて石ころ道の急登に変わり、中腹にさしかかったころ灌木の林床に一輪二輪と白い花が見えて来た。こんな秘境の谷に一面のヤマシャクヤクがお花畑を成し

ている。いままで十種ヶ峰ツウと自負していた私も全く知らない場面に無条件で脱帽した。「立てば芍薬・・・」と華やかさでは牡丹に一步を譲る芍薬だが、固く閉ざした蕾も、花卉を少しほどこいた様も気品があって美しい。短命なゆえになお美しい。まさに人知れず咲く貴重な花との出会いであった。

標高 800m の尾根に出てここから進路を北にとり、最後の急登に一汗かき、丁度 12 時に頂上を踏んだ。少しガスってはいるが、雄大な西中国山地の山並みと麓の田園風景をほしいままに、お弁当を開いた。下りはポピュラーな野外活動センターに向けてリョウブの新芽を仰ぎながら長い林道を歩いた。再びマイクロバスの客となり、往路を忠実に辿って県庁に帰着。

多くの皆様のメンバーシップに支えられて安全で心に残る山旅ができました。

(文責 小林愷子)

青空をバックに全員で



ヤマシャクヤク